

住民が安心して住み続けられるための地域医療を！

地域医療を守る共同行動 みやぎ連絡会 News

2020.10.09.Fri No.6

発行／地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会事務局
〒983-0047 仙台市宮城野区銀杏町39-18（民医労内）
TEL 022-782-0633／FAX 022-782-0634

県医労連・地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会

県立がんセンター（名取市）統合問題で共産党名取市議団との懇談

「県立がんセンターの名取市での存続と

医療機能の充実を求める」決議が市議会で採択！



10/5（月）県医労連書記局で、日本共産党名取市議団3名の市議と県立がんセンター統合問題について懇談を行い4団体から4名が参加しました。

8月に3病院統合問題が新聞報道で明らかになってから、この間の名取市議会で決議文が採決されたことなど、名取市議会の動きが報告され、県立がんセンターを巡る状況等、認識を共有しました。

今後取り組みについての情報共有等を確認しました。

（写真／名取市議団（左）を迎えての懇談）

宮城県立がんセンターの名取市内での存続と医療機能の充実に関する決議

宮城県立がんセンターは長年、名取市内で医療活動に取り組んできており、市民はもとより利用者の皆様にも名取市にある施設として広く認知されているところである。

今般、この県立がんセンターの連携・統合に向け関係機関の協議を開始する旨の新聞報道があり、市民の間には、県立がんセンターが市外に移転してしまうのではないかと云った不安や動揺が広がっており、本市議会にも多くの相談が寄せられているところであり、大きな課題としてとらえている。

また、本市を含む名取川以南のエリアには地域医療支援病院がなく、本市においては周辺地域の医療機関に頼っているのが現状であり、医療体制の充実は多くの市民が望む行政課題の一つである。

これらの状況を踏まえ、宮城県立がんセンターの名取市内での存続と医療機能の充実に向けて、名取市議会として全力を傾注して取り組むことを表明し、ここに決議する。

令和2年9月29日

名取市議会

「がんセンター機能を宮城県南に」 河北新報 2020.10.8 (木) 4市9町が要望提出で一致 3病院連携・統合協議

宮城県立がんセンター（名取市）と東北労災病院（仙台市青葉区）、仙台赤十字病院（太白区）の連携・統合に向けた協議を巡り、県南部の4市9町が、県立がんセンターの機能について名取市を含む地域内に存続させるよう県に求める方針を固めたことが、7日分かった。

関係者によると、名取市や白石市、丸森町など4市9町の首長でつくる県南サミットの非公開会合が7日にあり、県に要望する方向で一致した。

要望書案は、県立がんセンターの入院通院患者の約8割が仙台、仙南の両医療圏の居住者だと指摘。「県南部の医療拠点として欠かせない重要な施設となっている」と強調している。

県内のがん診療の拠点病院については「仙台市北部を含む県北部に偏在傾向が見受けられる」と主張。「少なくとも現状の体制を堅持してほしい」と求める。

3病院の連携・統合協議を巡っては、富谷市と名取市が病院の統合移転を想定し、誘致に名乗りを上げている。9月25日には名取市など県南沿岸部の2市2町が、地域内への立地を求める要望書を県に提出した。

宮城3病院統合、美術館移転…相談ない県に「倍返しだ！」 仙台市議、市長にハッパ

河北新報 2020.10.3 (土)

「県にやられっぱなし。やられたら、倍返しだ」。宮城県立がんセンター、東北労災病院、仙台赤十字病院の連携・統合に向けた協議を巡り、2日の仙台市議会9月定例会決算等審査特別委員会で、議員が大人気ドラマの決めぜりふを使い、郡和子市長に移転阻止へハッパを掛ける場面があった。

質問したのは村上一彦氏（民主フォーラム仙台）。協議の結果、東北労災と仙台赤十字の2病院が市外に移転する可能性に触れ「市民にとってすごい不利益。断固阻止しなければならない。悠長に考えている場合じゃない」と指摘した。

水道3事業の運営権を民間に一括売却する「みやぎ型管理運営方式」、東京エレクトロンホール宮城（県民会館）と県美術館の移転集約などの例を次々に挙げ「県は仙台に不利益な事業を何の相談もなく決める」と不満をあらわにした。

「県はカードを切って仕掛けてくる」と村上氏。県が宿泊税導入を打ち出した直後、市議会が市独自の宿泊税を求めたことを「(税金を) 取られる前に取る」姿勢だったと振り返り「病院移転も相談なくやってくるなら、こっちもカードを切れればいい」と提案した。

答弁した藤本章副市長は「(病院統合は) 断固反対の状況まで判断材料がそろっていない。県に情報提供を求め、判断に誤りがないようにしたい」と述べた。

宮城3病院連携・統合「仙台市長の積極関与を」 静観に議員苦言

河北新報 2020.10.2 (金)

宮城県立がんセンター（名取市）と東北労災病院（仙台市青葉区）、仙台赤十字病院（太白区）の連携・統合に関する協議を静観する郡和子市長に対し、1日の市議会9月定例会決算等審査特別委員会で、議員が市外への移転の阻止に向け「積極的に関わるべきだ」と苦言を呈する場面があった。

質問したのは橋本啓一氏（自民党）。「仮に3病院が統合、市外移転となった場合、市の医療体制に大きな影響があるのは明らか」と指摘。富谷、名取両市が統合移転を想定し、誘致に名乗りを上げており「統合する場合も（新病院は）仙台市につくってほしい」と表明すべきだと提案した。

これに対し、郡市長は2病院移転の影響を認めつつも「まだ統合や移転など具体的な議論に至っていないようだ。市民生活への影響に配慮して検討を進めるよう、私が県に意見を申し上げることも念頭に状況把握に努める」などと、歯切れの悪い答弁に終始した。

橋本氏は「(気付いた時には) 全てが決まっているということもある」と悠長に見える市長の姿勢を心配し「後手に回らない対応、取り組み、調査をお願いしたい」とくぎを刺した。